



記録改ざん16カ所

東京女子医大
手術ミス隠ぺい 執刀医自ら13カ所

東京女子医大病院の心臓手術ミス・隠ぺい事件で、死亡した群馬県高崎市（当時12歳）の看護記録の改ざんは、全部で16カ所あったことが警視庁捜査一課などの調べて分かった。証拠隠滅容疑で逮捕された執刀医、瀬尾和宏容疑者（46）は13カ所を書き直しており、改ざんの大部分は瀬尾容疑者自らが行っていたことが浮き彫りになった。

調べでは、改ざんは明香さんが死亡した昨年3月5日に行われ、6箇所または7箇所と記されていた瞳孔の直径は、人工心肺装置の操作ミスによる脳障害が起きなかったように見せかけるため、すべて4ミリに書き換えられた。瀬尾容疑者は当初、記録の改ざんを女性看護師長（54）に同容疑で書類送検に依頼したが、看護師長は3カ所を書き換えたが、後は拒否。このため、残りを瀬尾容疑者が書き直したという。

女子医大小児心臓手術事故
改竄

2002年7月4日 毎日新聞